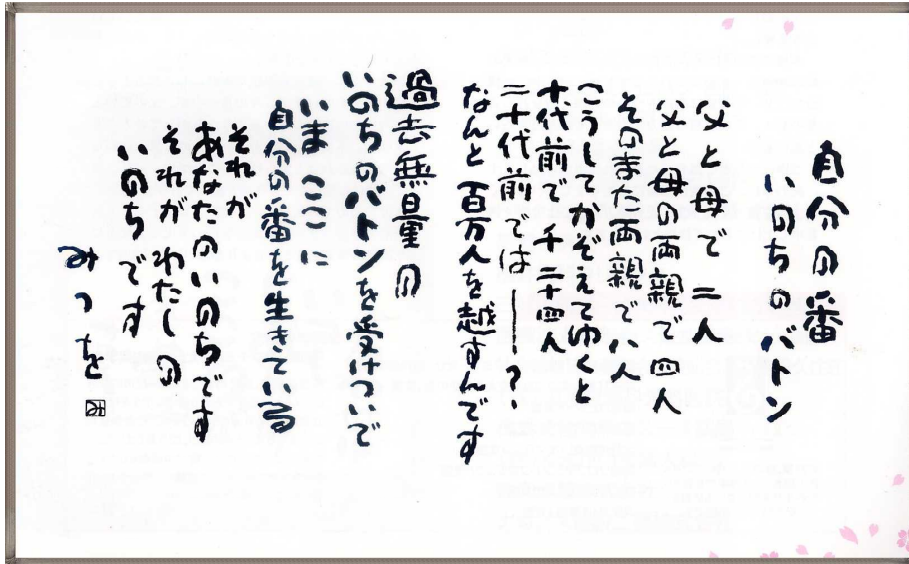
 <p style="text-align: center;">TEAM MINAMI 50</p> <h1 style="text-align: center;">菁莪育才</h1>	<p style="text-align: center;">第 49 号</p> <p>山梨県立甲府南高等学校 第3学年（文責：崎田） 平成27年2月27日発行</p>
---	---

☆ 歴史から何を学ぶ？…自分の番 いのちのバトン…



卒業の時期になると、なぜか“相田みつを”の「自分の番 いのちのバトン」という詩を思い出します。

何となく温かみを覚えるこの詩は「父と母で二人 父と母の両親で四人」で始まります。

我々が生まれてくるまでの間に多くの人々が関わっていることを

今更ながらに思い起こすとともに、脈々と伝わってきた私たちの命の尊さを感じるところです。

2月12日(木)の登校日の際、学年集会で私は生徒に「新生活が始まるまでの期間、受験が終わって一段落したら、保護者の方とゆっくり話をする時間をつくってほしい」と伝えました。

生徒には、高校を卒業するこの時期だからこそ自らが生まれてくる過程、生まれたとき、名前の由来、初めて立ったとき、歩いたとき、幼稚園や保育園へ通い出したとき、初めてのお遣い…、保護者の方々がどんな思いで子どもを見つめてきたかを知る機会をつくってほしいと考えています。既に話題になった御家庭もあるようですが、ぜひそのような時間をとっていただくことをお願い致します。

戦後70年を迎える今年、我々を取り巻く環境が少しずつ変化していることを感じます。ここ数日の新聞では「『18歳選挙権』成立へ 与野党 来週にも法案提出」（「山梨日日新聞」2月18日付）や「『文官統制』規定全廃へ 背広組優位から転換 防衛省が改正方針」（「山梨日日新聞」2月22日付）などの記事が目につきました。

事の善し悪しを早計に語ることはできませんが、物事を考える視点はいつも持っていたいと思います。その際、よく「歴史から学ぶ」という言葉がありますが、“歴史は常に「結果」の上に語られている”ことを承知しておくことが大切です。つまり「時代の当事者の多くは“どのような結果が待っているか”を知り得ない”状態で生きていたという現実を忘れるべきではないでしょう。過去にはいくつもそのようなケースが見受けられます。後になって、「あのときが…」ということがないように、偏らず、多角的に物事を考察する力、見つめようとする姿勢を求めたいと思っています。

相田みつをは上記の詩の中で「過去無量のいのちのバトンを受けついで いまここに自分の番を生きている」としています。この機に親子の対話を通じて、過去から現在、そして未来にバトンを受けつぐ第50期生が、自らの生きる時代に責任感を持つきっかけづくりをしていただければ幸いです。

☆ 歴史から何を学ぶ?(Ⅱ)…秀吉の機転に学ぶ情報の怪しさ…

天正 10(1582)年 6月 2日の早朝、日本史上最大の謀反とされる本能寺の変がおきました。これ以降の羽柴秀吉(後の豊臣秀吉)の活躍はあまりにも有名ですが、その秀吉にまつわる左の資料…なかなか興味深くありませんか。実は第 50 期生が 2 年生

のときに、現代社会の定期試験問題として利用したものなのですが、本能寺の異変を知った秀吉が摂津茨木城主の中川清秀に宛てた書状の一部です。この書状の中で秀吉は、「信長とその嫡男信忠は危機を脱して膳所(現在の滋賀県大津市)にいる」と記しています。日付は本能寺の変の 3 日後…。おそらく、世間がまだ混乱状態にあった時期でしょう。…勿論、この手紙の内容は全くのウソ…秀吉は信長の生存説を意識的に流すことで、混乱を鎮め、仇敵明智光秀を孤立させることを狙ったと考えられます。秀吉の流した情報が影響したのか、6 月 2 日、戦勝祝のために明智光秀を訪ねたある

…よつて只今京より罷り下り候者、慥に申し候。上様(織田信長)并殿様(織田信忠)、何も御列儀なく御きりぬけなされ候。せ、(膳所)か崎へ御のきなされ候内ニ、福平左(福富平左衛門)三度つきあい、比類なき勤(働)に候て、何事もなきの由、先ず以て目出度く候。我等も成次第埒城候条、猶進々申し承るべく候。其元の儀も油断なく、御才覚專一に候。恐々謹言。

六月五日 羽筑(羽柴筑前守秀吉)
中瀬兵(中川瀬兵衛清秀) 御返報

公家が、当日から数日間の日記を書き換え、自らに罪が及ぶのを避けた例も見つかっています。

どうやら「情報」に翻弄されるのは、現代人に限ったことでもないようです。…が、一部の者しか情報を知り得なかった時代と、誰でも多くの情報を入手できる現代とは大きな違いがあるでしょう。

インターネットが身近になり、多くの人々が指先一つで膨大な情報を得ることができる現代、まさに夢のような便利さが我々の生活を支えています。しかし、その一方で無責任な情報が氾濫していることも周知の事実です。周知の事実でありながら、これにまつわるトラブルは世間で後を絶たず、発信元のわからない情報に左右される人は甚に溢れています。噂話も含めて、凡そ「情報」と名の付くものが極めて怪しい代物であるという批判精神をもつことは、世の中を生きる上で必要な素養だと感じます。第 50 期生の面々には、この時代に生きる大切な「素養」が身につけていることを祈ります。

☆ 第50回卒業生と卒業記念品について

本日は同窓会入会式、表彰式、記念品贈呈式が催されました。

同窓会入会式では、同窓会より卒業記念品が手渡されました。記念品は「箸」です。高校を卒業して大学…やがては社会に巣立っていく 275 名に対して、“自分で飯を食えるようになれ”という願いを込めて学年から同窓会にこの記念品をお願いをしました。

全員に関係する記念品はその他、在校生から「印鑑」が贈られ、また学年からは 4 月に各クラスで撮った写真を用意します。それぞれ大切にしてもらえれば幸いです。

末尾になりますが、第 50 期生が学校に贈る記念品を御紹介します。このたび正面玄関に「山梨県立甲府南高等学校」校銘板(ケヤキ材)を設置しました。この校銘板は今後、正面玄関に在り、本校とともに歩み、本校の歴史を見守り続けます。何十年の歳月が流れ、生徒も職員もやがて入れ替わり、今の時代を知る人がいなくなっても、この校銘板は第 50 期生を温かく迎えてくれることでしょう。

卒業式の日、第 50 期生・保護者の皆様には、本校正面玄関まで足をお運びいただきたく思います。

次回の学年通信(「菁莪育才」第 50 号)は、3 月 1 日(日)に発行する予定です。